

## 日本地質学会2015年度 第3回理事会議事録

日時 2015年12月5日(土) 13:30~17:00

会場 北とびあ 901会議室

出席役員 理事(33名): 天野一男(16:00出)  
安藤寿男 安間 了 井龍康文 ウォリス  
サイモン 上砂正一 緒方信一 笠間友博 川端清司 川辺文久 小嶋 智  
小宮 剛 後藤和久 斎藤 真 佐々木  
和彦 杉田律子 竹内 誠 千代延俊  
内藤一樹 中澤 努 奈良正和 原山  
智 平田大二 星 博幸 保柳康一 松  
田達生 向山 栄 矢島道子(15:30出)  
山路 敦 山田泰広 山本高司 渡部芳  
夫

監事(1名): 山本正司

欠席役員 理事(17名): 有馬 眞 市川八  
州夫 海野 進 小山内康人 亀尾浩司  
清川昌一 榎原正幸 坂口有人 佐野弘  
好 沢田 健 菖蒲幸男 高橋正樹 竹  
下 徹 久田健一郎 廣木義久 松田博  
貴 三次徳二 宮田隆夫

監事(1名): 青野道夫

その他出席者 事務局: 橋辺菊恵

\*成立要件: 理事総数50名の過半数26名 本日の出席者30名(その後追加で32名)で本理事会は成立。

\*議決: 出席者の過半数16名(17名)

\*書記2名の選出: 山田泰広理事, 小宮剛理事を選出。

### 報告事項

#### 1. 執行理事会報告

(1) 執行理事会要点(斎藤常務理事)  
10月~11月 執行理事会議事録および12月議事次第をもとに, 要点の説明が行われた。

(2) 地質学雑誌編集委員会(山路理事)

①投稿数の減少により月刊の維持が危機的に困難な状況であるが, 巡検案内論文を取り入れることによってしのいだ。来年も同様の予定, 再来年以降は125周年の記念特集号が組まれるので原稿が増加することが期待される。

②投稿編集出版規則の改正(オーサーシップの適切性に関して)案を検討中。文部科学省の指導ならびに学術会議の模範への対応として, “投稿の適切性”についての方針が示された。機関リポジトリに関連して規則の検討を法務委員会に諮問中であり, それらとともに, 規則の改正をする予定。

(3) アイランドアーク編集委員会(海野理事, 代斎藤理事)

①編集状況の報告

②2016年vol. 25-1より隔月発行となる。

③JpGUのロゴ掲載要請については,

Wiley社より却下された。また, JSTから, DBに日本語抄録掲載の要請も却下された。

④現状では受理から公開までの期間が長すぎるという問題があり, その調査, 改善を検討中。

(4) 前回理事会からの逝去会員(名誉会員3名, 正会員4名)に対し, 黙祷をささげた。

#### 2. 理事および委員会等報告

(1) 125周年記念事業実行委員会(佐々木理事)

活動報告および現状で検討されている記念事業等について工程表により詳細な説明がなされた。検討された記念事業の概要は以下のとおり。

①記念出版物の発行(天野担当): 「社会と地質学」を出版社から2018年出版予定で検討中。

②地質学雑誌の記念特集号(宮下担当): 100周年以降25年間のreview誌を刊行予定。

③惑星地球フォトコンテスト写真集(平田担当): 2018年出版社から出版予定で検討中。

④会員全員への記念品: 会員証の作成。2016年中旬デザイン検討。周年にこだわらず, 準備でき次第配布も検討。

⑤記念式典: 2018年5月の総会時(東京)に式典とレセプションを実施する。記念講演会も検討。

⑥9月年会(札幌): 記念シンポジウム等の学術的記念行事を実施。学術交流協定相手国代表の招待を検討。

⑦記念ロゴ: 2016年9月決定, 2017年以降使用の予定。募集対象は会員。著作権は学会。

⑧寄付: 募集は2016年12月から1年間の予定。2016年4月までに予算案及び寄付目標を決める。

以上の説明の後, 式典に国際交流協定相手国を招待するかどうか, 特集号の査読, 編集体制, 寄付の募集期間などについて質疑応答があった。

(2) 防災学術連携体(2016/01発足)への参加について(斎藤理事)

2011/5から日本学術会議と連携して工学系の学会を中心に「東日本大震災の総合対応に関する学協会連絡会(30学会が参加)」として活動してきたが, 今回, さらに多くの学会に呼びかけて2016年1月より「防災学術連携体」を設立することとなった。2015/11/20時点で43学会の参加がある。事務局は, 土木学会が担当する。

工学的な分野が中心だが, 地質学会はこの連携体に参加し, 自然・地質科学的な観点や, 自然の重要性を説くなど, 働きかけを行いたいと考えている。

(3) 各賞選考委員会推薦状況(天野理事, 代斎藤理事)

今年度の応募状況は以下のようであった。

推薦数総計: 19件(学会賞5, 国際賞1, 小澤・柵山賞4, 研究奨励賞3, 論文賞2, 小藤文次郎賞2, 学会表彰1, 功労賞1)なお, 学会賞, 国際賞, 小澤・柵山賞の3賞については, 選考検討委員会に選考を諮問する。

#### 3. その他

(1) 年会の緊急時対応指針について(竹内理事)

“一般公開事業の実施の際の警報等発令時及び地震発生時の対応指針”を改正し, 「日本地質学会学術大会等に関する緊急時対応指針」とし, 内容を加筆修正した。概要は以下のとおり。なお, この指針文書内に責任者を明確にせよとの意見があり, 了解された。地震発生および特別警報や暴風警報により年会や一般公開行事の開催が困難な場合には大会実施委員会及び執行理事会が相談の上中止とする。中止の告知はホームページでおこない, 電話での対応をおこなう。なお, 年会行事は会期中に延期可能な場合を除き, 代替実施はおこなわない。

・地域的な災害, 交通事情などによって, 決められた時間までに年会会場に来ることができない場合は, 発表を取り消しにする。この場合は, 講演要旨もJ-stageには掲載しない。

(2) 地質地盤情報の活用と法整備について(小嶋理事)

地質・地盤情報活用検討委員会が作成したパンフレット「地質地盤情報の活用と法整備」を出席理事に配布した。また, 「地質・地盤情報活用促進に関する法整備推進協議会」は今年度で当初計画の3年が経過したので推進協議会としての活動を終了する。ただし, 法整備についてはまだ途上なため, 新たに来年度から「地質・地盤情報活用活性化研究会」を設立し, 活動を継続することとなった。地質学会も引き続き参加する。

### 審議事項

#### 1. 県の石の選定について

前回の理事会で決めたように, 川端委員長と協議のうえ, 県の石選定委員会の辻森・重田両委員に一次案の作成を依頼し, 一次案ならびに支部案をもとに, 選定基準の7項目を再確認のうえ検討した執行理事会案について審議した。

選定されたもの個々についても活発な審議がおこなわれたが, 時間的制約もあり, さらにご意見がある場合には会長あてに直接, ということで審議を終了した。今後その意見を基に執行理事会で検討して, 早急に理事会でメール審議を行うことにした。なお, 特筆すべきことは以下のようであった。

・“日本最古”など今後変更する可能性のある選考理由を採用しない。

・採用されなかったものについてのfollow upを検討。

・選定後の保全には十分に注意を払う必要があることから、産出場所等の特定はせず、博物館等での観賞を奨励する。

・岩石種のバランスと地元の知名度と学術的価値などは考えず、県を代表するものを選ぶ。

・選定理由の一つとして、現存するか、博物館に展示されていることは重要な要素。

2. 長瀬たんけんマップの出版について  
保柳理事から、2回の校閲を経て内容はたいへんよくなったとの説明があった。この原稿により3000部の印刷(販売価格 会員300円、一般400円)を全会一致で承認。

3. 名誉会員推薦委員会理事会委員の選出について

理事会推薦委員として笠間友博理事を全会一致で選出した。階層別・職責委員は下記の通り。

階層別委員4名の選出

官公庁：田中裕一郎(産総研)、中小高教員：会田信行(秀明大学学校教師部)

会社：足立勝治(アジア航測)、大学：鈴木和博(名古屋大名誉教授)

職責委員(各支部長)7名

竹下 徹, 土谷信高, 有馬 眞, 原山 智, 宮田隆夫, 榊原正幸, 佐野弘好

4. 2016年度事業計画案について

井龍会長より、今年度の事業実績を踏まえた来年度の事業計画基本方針案が示された。事業計画概要についてはそれぞれの計画案をより具体的にしたいほうがいい、いくつかの項目については、文章をもう少し工夫すべき、関連性のある項目はまとめる、などの意見が出された。

これらの意見を参考に最終案は、次回4月の理事会に提案することとした。

5. 優秀ポスター賞のエントリー制について  
現状は、1日当たり80~100件のポスターを、3日間で述べ24名の委員が審査しているが、負担が非常に大きい。負担軽減のためエントリー制を採用することが行事委員会より提案された。提案理由のうち、審査対象の制限、年齢などに関わるような文言は削除し、提案は承認された。

エントリーの方法については賞の目的に関わる変更もあるため、再検討することとした。

6. その他

(1) 巡検案内書のCD版作成について

来年度東京・桜上水大会の実行委員会よりCD作成の要請があった件について、編集委員長として作成しない理由等を返答したことが、山路理事から説明され、その後意見交換をおこなった。

実行委員会事務局長の笠間理事からは、巡検案内書本来の目的に沿い、より内容を豊富にできるCDをこれまで同様に作成すべき、との意見があった。雑誌に掲載する場合は費用の関係もあり、ページおよびカラーの制限もあるが、JSTに掲載することで検索も容易に行え、引用も明確になる、JST掲載の際には図版のカラー差し替えも

でき、ダウンロードすればカラー版の図版も問題なく手に入る、等々の意見が出て、CDを作成する意味はないというのが、大方の意見であった。

長野大会では、地質学雑誌の原稿不足を補うために巡検案内書を地質学雑誌に掲載した結果、月刊を守ることができ、CDを発行しないことで経費の節減にもつながったことは大きなメリットであり、来年以降もこの方針で行うということが山路理事から発言され、現在、会員にもアンケートをして意見を聞く準備をしているので、アンケートの結果をみて次回の審議に付すこととした。

\* 議事終了にあたり、山本監事から本日の理事会についての意見を述べていただいた。続いて、井龍会長からの挨拶をもって、理事会を終了した。

以上

2015年12月23日

一般社団法人日本地質学会

理事会議長 小嶋 智

副議長 向山 栄

代表理事：会長 井龍康文

(以下、役員氏名略)

## 2015年度 第3回執行理事会議事録

期 日：2015年9月5日(土) 13:00~17:00

場 所：地質学会事務局

出席者：井龍会長 山本副会長 渡部副会長  
齋藤常務理事 ウォリス 緒方 杉田  
竹内 中澤 平田 保柳 星 松田  
(事務局) 橋辺

欠席者(委任状提出あり)：海野 坂口 廣木 山路

\*定足数(12, 委任状含む)に対し、出席者14名, 委任状3名, 合計17名の出席。

\*前回議事録の承認

### I 審議事項

1. 教科書の質向上に向けたプロジェクトについて(星理事)

・会長が設置したプロジェクトであることを確認。

・高校「地学」(4単位科目)の教科書検討メンバーは次の7名：伊藤 孝, 生形貴男, 中村教博, 久田健一郎, 廣木義久(取りまとめ), 星 博幸, 三宅 明。

・9月中に役割分担, 作業スケジュール等を確認し, 教科書レビューに入る(11月初旬まで)。11月中にレビュー結果の集約, 表現調整等を行い, 意見書(案)を作成。それを12月開催の執行理事会および理事会に

提出し, 承認が得られたら意見書を教科書出版社に年内に送付する。

・高校「地学」教科書を持っていないメンバーには学会が教科書を用意する。事務局にも教科書を常備する(地学, 地学基礎)。

2. 共催名義使用規則作成(緒方理事)

共催・協賛および後援等の申請についての規則(案)を検討した。承認基準等の記述を整理した修正案を次回の執行理事会で再検討する。

3. 「海洋底調査の基本」の出版に関する件

『一般社団法人日本地質学会「海洋底調査の基本」編集代表者・安間 了』として共立出版と契約する。出版前に対応する部会に回覧することを想定しているが、詳細は今後詰める。印税は著者と学会の折半とし、共立出版からそれぞれに支払うものとする。

4. 10日理事会議事次第の確認

報告事項等を追加した。

### II 報告事項

1. 全体的報告

1) 日本学術会議地球惑星科学委員会よりの第23期「学術の大型研究計画に関するマスタープラン」策定にあたってのアンケートに回答した。連合から、地球惑星科学委員会企画分科会および大型研究計画検討ワーキンググループで取りまとめ、学術の大型研究計画検討分科会への回答の中に含めたとの返事があった。

2) 英国地質学会と本学会の共同プロジェクトとして計画したArthur Holmes Meeting (Tsunami hazards and risks: using the geological record)に関連し、英国の日本大使館より、レセプションを日本大使館にて開催するとの連絡があり、会長の挨拶も求められた。

3) 経産省から地層処分についての意見募集に執行理事会内メールで意見交換し、応えた。

4) 長野での情報展開会式(9/11, 9:15より)には会長が出席する。

5) アジア太平洋ジオパークネットワーク山陰海岸シンポジウム(後援)開会式の会長の臨席については、渡辺真人氏(ジオパーク支援委員会)に代理を依頼した。

6) 県の石について(斎藤)。中間報告を選定委員会に提出してもらう。

7) 地質地盤情報活用推進協議会地質地盤情報活用検討委員会の松浦委員より、同委員会の議事録(9回, 10回)が届けられた。

2. 運営財政部会：総務委員会(緒方)

<共催・後援依頼, 他団体の募集等>

1. 山田科学財団へ1件の推薦をしたが、残念ながら採択とはならなかった。

2. 福武財団より2016年度「瀬戸内海文化研究・活動支援助成」公募(締切9/10/1)→News, geo-flash, HPに掲載。

3. 原子力総合シンポジウム2015の終了報告：15講演, 参加者160名。

<その他>